

いますぐ詠める！俳句講座

國學院大學北海道短期大学部教授 月岡道晴

1 俳句の約束ごと

〔俳句〕 5・7・5 + 季語必須 数え方は「一句、二句……」
 〈短歌〉 5・7・5・7・7 + 季語不要 数え方は「一首、二首……」

○○○○○＝「上(かみ)五(ご)」
 ○○○○○○＝「中(なか)七(しち)」
 ○○○○○＝「下(しも)五(ご)」

●季語＝人々が長い年月を通じて季節の風物や生き物などに対して形成した気分や雰囲気、思考を凝縮させた語。

▼「歳時記」に詳しく集成されている。

俳句を詠む者は歳時記を必ず参照しなくてはならない！

2 季語を入れる

●上五か下五の位置に五音の季語を入れてみよう。
 ●5 + 12 / 12 + 5 音のいずれかで最初は試してみよう。

＝ 5音の季節 + 季語とは関係のない12音フレーズ(＝俳句の主役)

▼必ず最初に12音のフレーズ(俳句の主役)から作ること。

▼俳句の主役には誰も思い付きそうもないこと(オリジナルのもの)を抜擢しよう！

▼俳句の主役には季語を入れないこと。季語の力は強いので、句の中心がブレてしまう。歳時記を引いて確認。

▼最後に主役をうまく引き立てそうな5音の季語をくつつけるだけ！

〔例〕 鰯雲ひとに告ぐべきことならず 加藤 楸邨

※季語「鰯雲」＝秋の空高くで白雲の小団塊が鰯の群れのように群集または並列しているもの。鱗雲とも。巻積雲に分類される。なお羊雲はより低層の雲で下部に陰影を伴い、高積雲に分類される。

●「鰯雲」のイメージ／秋の冷たい空気感、夕暮れの光と陰、とりとめなく空の涯まで続く……など。

●これらのイメージが総て「鰯雲」の上に重ね書きされる。たった五音で無数の情報と情感を読者に伝える装置。

●この中から特に「とりとめなく続く」イメージが主役の「ひとに告ぐべきことならず」と響き合う。
 ▼(大意)「おお、鰯雲！とりとめなく空の涯まで続くこの雲よ！わたしの物思いもそのようにとりとめのないもので」人に告げられるようなものではないのだ！

3 一句詠んでみよう！

1、「俳句の主役」を立てましょう

▼自分だけが見つけたモノ、景色、人、それらの様子など＝これを「俳句の主役」に据えます(簡条書き風で)

2、「俳句の主役」を12音のフレーズに整えましょう

▼○○○○○でも、○○○○○○でも、○○○○○○○○でも構いません

3、「俳句の主役」を引き立てそうな5音の季語(歳時記から探そう！)を脇に据えて完成！

4 お手軽！五音の季語集(詳細は歳時記を参照！)

春 春の春 春の宵 春の霜 春の雪 春の雷 春の雪 春一番 春暑し 夏近し 春夕焼 芽え返る 残る雪 花曇 花の雨 梅の花
 花衣 初桜 臘月 水温む 風光る 山笑う 桜餅 風車 シヤボン玉 雛の恋 鳥の恋 燕の巣 桜貝 ヒヤシンス
 チューリップ つくしんぼ

夏 夏の夕 夏終わる 夏の川 夏の海 夏の星 熱帯夜 雲の峰 入道雲 青風 風薫る 南風 梅雨曇 炎天下 夏日影 大西日
 青田風 岩清水 ソータ水 サングラス 扇風機 水鉄砲 蝉時雨 鯉のぼり 燕の子 かぶと虫 雨蛙 かたつむり 夏木立
 草茂る ラベンダー

秋 秋の朝 秋の暮 秋暮し 秋深し 秋の風 秋麗 冬隣 そぞろ寒 天高し 鰯雲 星月夜 流れ星 天の川 星祭 魂祭 秋の田
 秋の雨 稲光 秋出水 盆休み 運動会 文化の日 赤とんぼ 虫の声 きりぎりす 秋の蝶 渡り鳥 秋燕 山ぶどう 秋桜
 紅葉狩 銀杏散る

冬 冬の昼 冬の夜 冬ざるる 冬浅し 春隣 冬の海 冬の雲 冬の月 空つ風 木枯来 寒昂 雪催い 冬景色 山眠る 溜凍る
 氷点下 息白し 霜柱 随間風 落葉焚 日向ぼこ クリスマス 除夜の鐘 冬鷗 冬の蝶 竜の玉 冬木立 枯尾花 紅葉散る
 掃り花 寒椿

新年 お正月 お元日 鏡餅 初日の出 お年玉 年賀状 初詣

※有限会社マルコポコム「俳句を作ろう！ 虎の巻を元に作成

短歌・俳句好きな人集まれ

※詳細はホームページで

- ◇ 9月14日(土) 國學院セミナー 小樽商科大学札幌サテライト ※8月31日から日程が変更となりました
- ◇ 9月21日(土) 短歌(みそひともし)の庭 紀伊國屋書店札幌本店 1F インナーガーデン
- ◇ 9月21日(土) Haku Bar 太郎吉蔵(滝川市)